

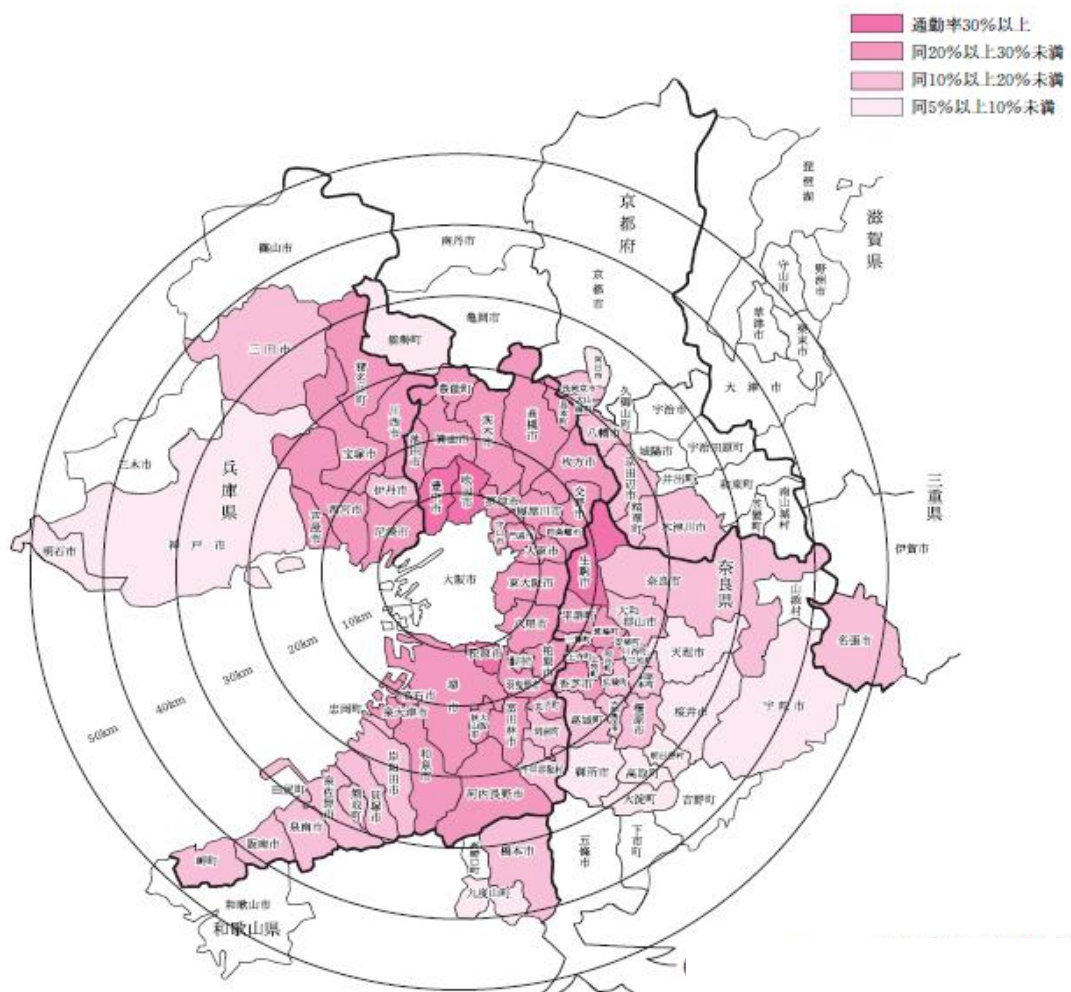
I 大都市の税財政における現状と課題

(1) 大都市としての大阪市の実態

① 広範な通勤圏

- 大都市は、政治、経済、文化など各分野において主要な地位を占め、我が国の発展に貢献しています。
- 大阪市も、大阪圏域、関西圏域の中核都市として広い範囲の人々にも貢献する大都市としての役割を担っています。

大阪市への通勤率



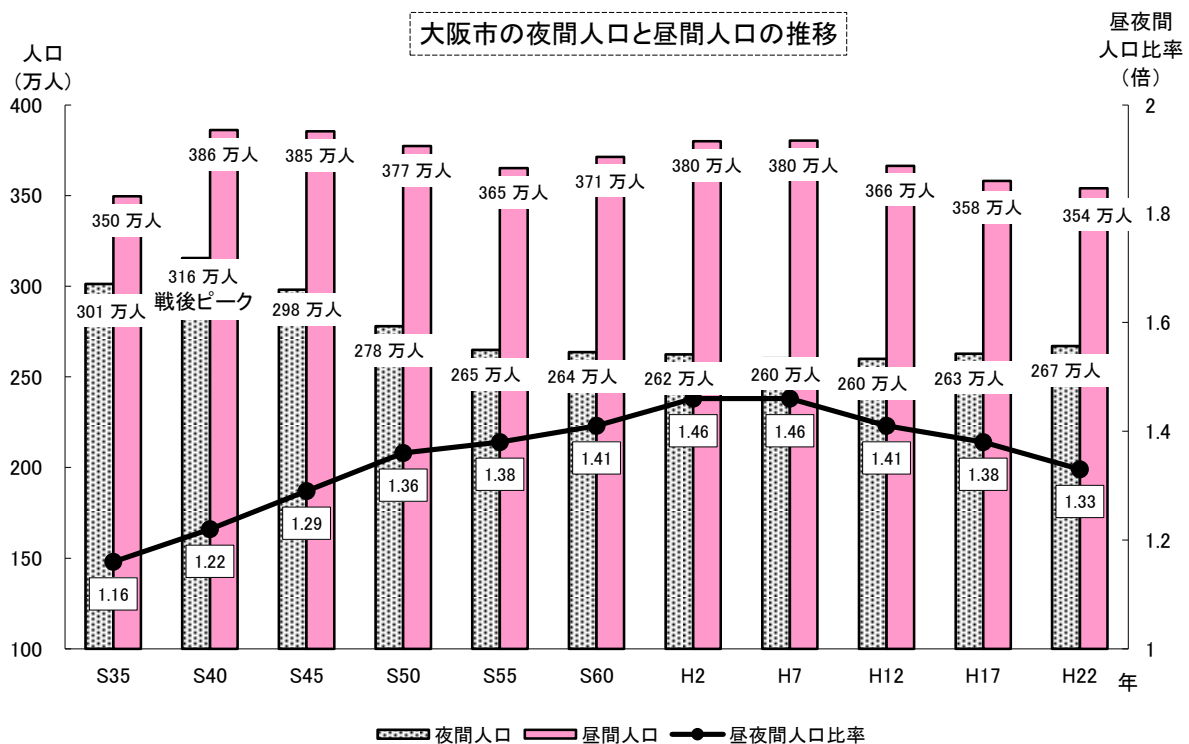
通勤率＝大阪市への通勤者数／各市町村の常住就業者数
 (資料)平成17年国勢調査

②膨大な昼間流入人口

- 大阪市の夜間人口は昭和40年の316万人をピークとして減少していましたが、近年は260万人台の水準で推移しています。また、昼間人口は、多少の増減はあるものの、350万人から380万人の水準で推移しています。
- 大阪시는事務所や事業所などが集中しており、昼間流入人口は、大都市の夜間人口に匹敵する規模となっています。
- このような物と人の集中により、財政需要は増嵩することになります。

<物と人の集中により増嵩する財政需要>

都市基盤の充実(街路、公園事業など) 利便性の確保(地下鉄、バス事業など)
 生活環境の充実(清掃、下水道事業など) 防災機能の充実(消防・救急業務など)



他都市の人口

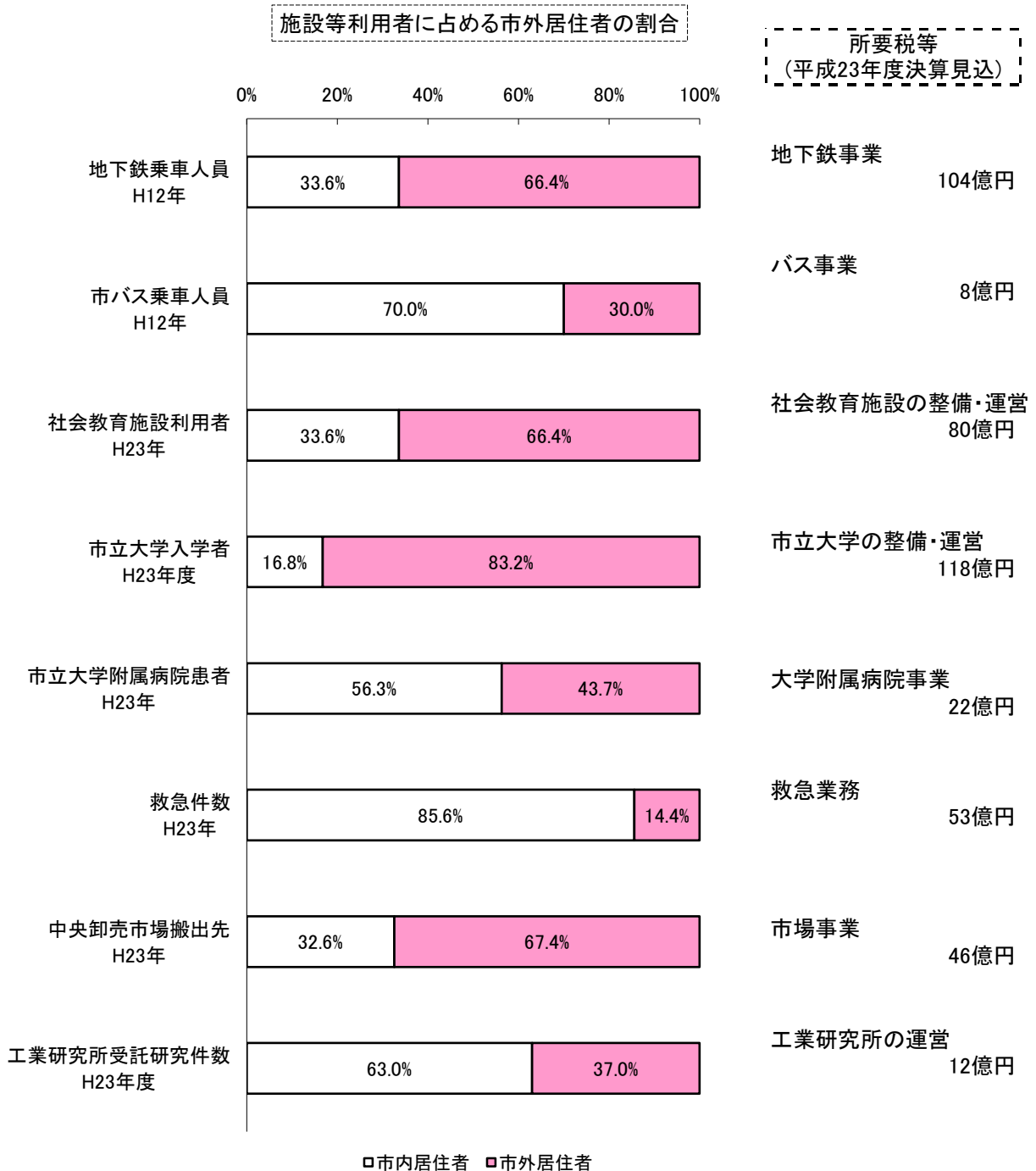
(人)

	大阪市	東京都区部	横浜市	名古屋市	京都市	神戸市
夜間人口	2,665,314	8,945,695	3,688,773	2,263,894	1,474,015	1,544,200
昼間流入人口	a	3,169,438	410,298	495,614	235,624	211,008
昼間流出口	b	403,596	723,741	190,132	110,602	171,443
昼間人口	c	11,711,537	3,375,330	2,569,376	1,599,037	1,583,765
昼夜間人口比率	d=a+b-c	1.31	0.92	1.13	1.08	1.03
	d/a	1.33				

資料:平成22年国勢調査

③圏域に貢献する大阪市

➤ 大阪市は、大阪都市圏や関西の発展に貢献する都市として、地下鉄等の都市交通網の整備や社会教育施設の運営など、さまざまな事業を実施しており、高度な都市機能が集積しています。



(*1)社会教育施設利用者は、社会教育施設のうち美術館、東洋陶磁美術館、大阪歴史博物館、自然史博物館、科学館の利用者

(*2)市立大学、市立大学附属病院、工業研究所所要税等は、交付金等